



- 白子川源流まつり 報告
- ドロ浄化ポンプ、初稼働
- 大六小3年生「源流探検」
- 自由投稿「大二中道路問題」
- 定例活動 報告
- 投稿「大泉に越した頃の話」その7

## 白子川な人

(その5)

“人知れず”のルー

### 森田栄次郎さん

(東大泉7丁目在住)

ぶん 東谷 篤/え 萩原 和雄  
森田さんは以前、日に40本の煙草を吸っていた。5年前に心臓を患って手術した後、医者に勧められて、毎日1時間ほど歩くことにした。それ以後現在まで、白子川のほとりを歩くことが日課となった。歩くようになってまもなく、ゴルフのクラブを持ち小走りの、細身で長身の男の人と顔をあわせるようになった■その人は月曜日になると決まって、井頭公園の反対側のベンチ横につるした缶の吸い殻を片づけていた。森田さんは何度かその人と話し、手伝った。2年半ほど前、姿がぼったり見えなくなったと思ったら、途端に川端に吸い殻が散らばった。森田さんは、二人の公園掃除のおじさんに訴えたが、そちらは掃除の範囲ではない、と言われた■「自分がやるしかないのだ」森田さんはそれから2年半、名も知らぬその人のあとを受け継いで、10個



ほどの缶の吸い殻の片づけを続けている。それを始めて間もなく、犬を連れて歩いているおじさんから、その人が亡くなったと聞いた。その人の名は林さんと言った■川に入って掃除している私たちにとって、吸い殻缶がつるされたこと、定期的に片づけが行われること、これは“革命的”なことだった。川に捨てられる吸い殻が激減したのだから■「夜中に、いたずらで缶を川に捨てる人がいるんです。困るんです。こないだも川に入って取ってきたんですよ」もうすっかり煙草を吸わなくなった森田さんがそう嘆く。その言葉に、林さんから“心のバトン”をしっかりと受け取った森田さんの姿を感じた。

# 定例活動 報告



湿った石の上で水分を吸うナミアゲハ

## 源流域・水の測定データ

測定地点	項目	日	8/22	9/27	10/24	11/28
		天気	☀	☀	☁	☀
	気温℃		36.4	26.5	白子	15.5
源流部	水温℃		-	19.9	川源	16.8
	水深cm		0	14	流ま	15
	PH		-	5.3	つり	5.8
井頭橋	水温℃		28.4	19.7	び中	16.9
	水深cm		16	32	止	31
	PH		8.5	5.3	〜	5.8

上記は、毎月記録している測定データのほんの一部。このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量なども測定。

## □白子川源流域のようす

### ★夏から冬にかけて

#### 水量は？

真夏には渇水の状態になりつつあったが、9月の雨で湧水が復活。毎年、秋の源流まつり時の水量が気になるところだが、今年はその心配をしなくてすんだ。さて、降雨量の少なくなる冬季だが、今のところ十分な水量を保っている。

#### 生きものたちは？

**8月** 干上がりかけた源流のわずかな湿地に、ナミアゲハの群れが集まって水を吸っていた。ムギワラトンボ(♀)が水辺で産卵していた。近くにシオカラトンボ(♂)を確認。クロメダカやギンプナの稚魚の群れがたくさんいた。

**9月** ギンプナの幼魚の群れが3箇所、合わせて500匹ほどを確認。アメリカザリガニの子どもが大発生している。

**11月** ギンプナの幼魚の群れ50匹ほどが大きくなっている。水量が豊富で環境がいいせい、引き続きアメリカザリガニの子どもが大発生している。

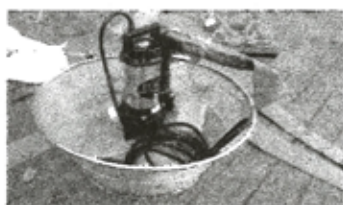
●植物 相変わらず背丈のあるカンガレイの勢力が著しく、草刈が欠かせない。ガマ、ミクリ、ジュズダマ、ウキヤガラといったものもじわじわと増えてきた。

●上記以外の動物 トウキョウダルマガエル、ツマグロヒョウモン、イトトンボ、オンブバッタ、ナツアカネ、ホトケドジョウ、アキアカネ、スジエビ、シマドジョウ、アブラハヤ、アメンボ、コミズムシなど。

## 活動記録

8 / 22	定例活動	10/24	白子川源流まつり
8 / 26	源流通信第30号発行	10/31	ごたごた荘こぶしまつり出展
9 / 4	わら筆づくり	11/18	大六小総合学習インタビュー
9 / 19	東久留米湧水シンポジウム	11/28	定例活動
9 / 26	定例活動	12/17	湧水保全フォーラム全国大会
	大南小3年生川体験		in ひがしくるめ 参加

酸素を供給する！  
川底のドロ浄化 **ポンプ** 初稼働



「…ちょっと水圧が弱いかなあ？」

11月の定例活動日に、川の水を排水用ポンプで吸い上げ、ホースで川底のドロをかき混ぜる「浄化装置」の初運転を行いました。

この装置は、ドロの中に酸素を送りこんで好気性微生物をふやし、川底浄化をねらうもの。

前号でも紹介しましたが、渋谷会員が小林工務店さんの協力を得て完成させたこのシステムは今回が手始めで、木道のエリアを中心に放水・攪拌しました。効果のほどは、まだ先です。

今後も、水位があれば継続して実施していきたいと思います。

(菅沢博)

11月18日(木)、練馬区立大泉第六小学校の3年生30名が源流にやってきました。その名も『大泉昔探険隊』。3年生から始まる総合学習の一環です。

白子川探険は今回が初めてなので川には入らずに、質疑応答と湧き水の観察などにとどめた50分間でした。次の機会には、ぜひとも川に入ってもらい、五感で体感してほしいものです。

大泉第六小学校  
3年生の源流探険

当会としては、大南小・大二小に続く三番目の小学校との関わりができたこととなります。これを機に同校との関係を深め、環境教育の「教材」として白子川をとりあげてほしいと思います。

(菅沢博)



「水にさわってみよう」





カルガモさん、きれいに焼けたね



わあー、カエルさんがのってきたよ!



ささ舟のここを、よく見てね



なんびさいるかな?



メダカ博士、大塚さんの源流談話  
メダカを育てる工夫や苗分け話、さらに貴重な戦争体験も語る



日記には、川によせる温かな思いが書きこまれている



ぶくぶく水が湧き出る



かわいいなあ



## 第10回 白子川源流まつり

(10月24日 大泉井頭公園にて開催)

### さわった! つくった!

### やってみた!

子どもたちの  
生き生きとした表情。

はじめての体験は、こんなにも真剣。  
自分の手をつかうことが、  
こんなにたのしいなんて・・・

どんなに時代が進歩しても、  
この手の感覚が  
「あそび」の原点。



缶つりゲーム、うまくつれるかな?



ほら、ぶんぶんごまがまわせたよ!



縄文土器のミニ拓本だよ



わら筆の作品、墨のにおいがながしい



練馬の地図パズル、これはここかな?



火おこしに挑戦! けむりがでたー



このほか、有害化学物質の話を真剣に聞く人や、自然科学の良書を集めた古本に目をとめる人の姿が印象的でした。



大南小4年生の白子川調べ学習  
興味をもったことをていねいに調べて、わかりやすく工夫して発表



地元の人の絵画や写真、書などの作品を鑑賞



屋根に降った雨は、雨水浸透ますから地下へしみこむ



ホタルの幼虫や、源流のホトケドジョウなどを観察



まつりのラストを飾る歌声

## じーっと 見た! 聞いた! 100%湧水の川のこと

子どもたちの発表を聞いた。  
川の湧水がかけられることがあるってホント?  
湧水がかけられないための、雨水を大地にもどす仕組みを見た。  
絶滅危惧種のホトケドジョウって?  
生きものの水槽をじーっとのぞきこんだ。

プレゼントのクロメダカ、うれしくてじーっと見た。  
このメダカは、大塚さんが1年かけて育てたもの。

みんなの願いは、生きものがたくさんすめる白子川。  
この川に、いつの日かホタルを飛ばしたい・・・  
ゴーバックサタデイズの明るい歌声がひびいた。



昭和37(一九六二年)、南大泉の生活が始まった

## 大泉に越した頃の話(その7)

池野明男



## 大衆文化と大泉

前号の続きですが、トーサツとわが大泉について触れたいと思います。

一九三〇年代生まれのロートル組である私の子供時代は、戦中から終戦直前まで「軍国少年」から「自由デモクラシー少年」と、洗脳に次ぐ洗脳という変化社会にあつて、ラジオの平沢氏の「カムカム英語」のメロデーが流れる中、「ギブ・ミ・チョコレート」などと米占領軍のジープを追いかけ、バラまかれるチョコやガムを拾い歩き、家では麦入りごはんのオカズでは珍しい配給の「レーション」(軍用放出食料)のコーンドブーフに舌つづみを打ち、親と共に耐乏生活をしていました。

混乱した社会ながらも子供(小学五、六年位)らは何か新しい世が来るのじゃないか—という漠然とした気分でした。時の占領政策か知るべくもないが、私達学童は校外

授業としてやたら街の映画館でアメリカ映画を見せられました。その中でも「アメリカ交響楽」が最も印象的でした。作曲家ガーシュインのジャズをクラシックに取り入れた未来的でダイナミックな旋律と、黒人に扮したA・ジョルスの「スワニイ」の絶唱、車が一杯のタイムス広場やマンハッタン<sup>スウェーデン</sup>の繁華街の光景は、戦後児童にとって今という「カルチャーショック」の何ものでもなかったです。

他にも見た娯楽映画では「エノケンの法界坊」や今では他愛のない片岡千恵蔵の活劇「七つの顔の銀次」、時代劇では大河内伝次郎の「鞍馬天狗」、児童向けでは東映の「紅孔雀」(東千代之介主演)や中村(後の萬屋)錦之助の「赤胴鈴之介」など当時の若手アクターが活躍しました。この東映では「明治天皇と日露大戦争」で天皇役の嵐寛十郎(通称アラカン)が重厚な演技で喝采を博していました。

また東映は昨今のアニメブームの中で脚光を浴び、トーサツの東側道路向うにある「東映アニメーション」社では時々アニメイベントを行ない、大泉学園駅のコンコースにはアニメキャラクターの人形像が置かれ、また西武鉄道では「銀河鉄道」のスリーライン電車<sup>ハヤト電車</sup>が

走る有様です。まさに大泉は「アニメのふるさと」には違いありません。今やアニメはB級大衆文化から「世界文化」に成長したと云えましょう。

もう一つ大衆文化の一翼である「カラオケ」があります。この「カラオケ」が大泉で始まったという事は余り御存知ない向も多いと思います。俳優・都健二氏の著書『東映・東撮物語』には、一九七〇年代の某年、ジュークボックスしかなかった大泉学園駅付近の酒場に、当時流行し始めた4〜8トラックのテープ式(音楽)ステレオ再生コンポを持ち込み、テープ(コンテンツの曲)に合せて飲み仲間や相客に唄わせたとあります。それと軌を一にして各地にこれをまねて客にノー歌詞の曲を楽器の演奏で歌わせる店が続々現われはじめ、現在ではアジアだけでなく欧米にも波及する状況で、この日本の大衆文化のグローバルなカラオケフェイト、バーが現出しました。

その嚆矢ともいうべき例の大泉学園のカラオケ酒場は、とうに廃業の由でまさに忘却の彼方ですが、「カラオケ発祥の地」が特定されれば大泉否、東京西部の名所となること請合いでしょね。(終わり)

# 大二中が危ない! 源流が危ない! この町が危ない!

-----都市計画道路に注目を-----

南大泉1丁目 菅沢 博

白子川源流水辺の会のみなさん! そして、水と緑に恵まれた大泉にお住まいのみなさん!  
この差し迫った問題を一人でも多くの方に伝えたく、「源流通信」の紙面をお借りました。

\*

問題はこうです。

昭和22年の大昔に決定された都市計画道路(135号線・232号線)が、大泉第二中学校の校庭のど真ん中で交差するという信じられない道路計画が今、動き始めています。

## 【校庭が15m道路で分断されていいのか?】

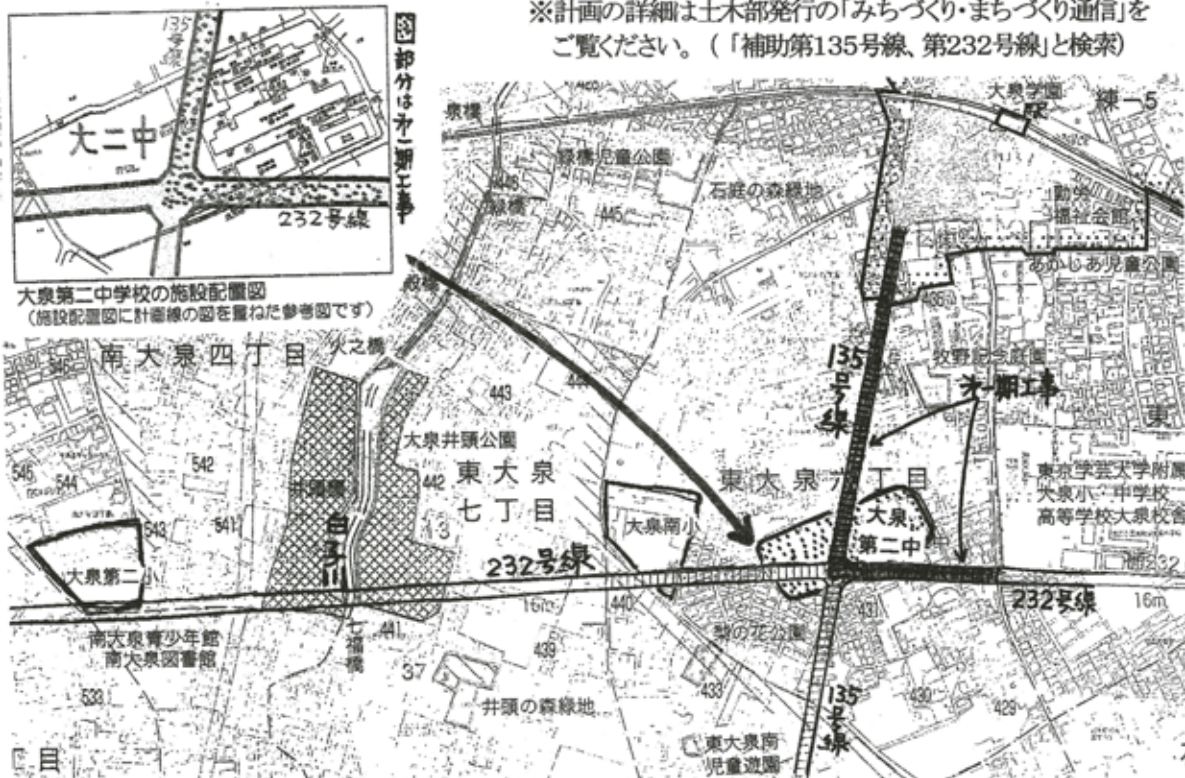
練馬区や教育委員会は学校の移転を第一に検討しましたが見つかりませんでした。また、道路交差方法については、学校の地下を通す「地下案」や、学校の上に造る「高架案」を模索しましたが実現困難となり、結局は「学校敷地内での平面交差」という最悪の事態となりました。そして、10月の区議会では調査費用が可決されました。区は来年度にも測量に入り、平成27年度着手をめざしています。

## 【住み慣れたこの町の素晴らしい環境がこわされていいのか?】

東西に交差する232号線は、大二中のみならず将来的には大泉南小や大泉第二小の校庭をえぐり、白子川の源流を潰し、そして何よりも、長年住み慣れた多くの方々の住居を奪ってしまいます。みんなで声を出していきましょう、自分(個)と地域(全体)のために。

【問合せ先】練馬区まちづくり事業本部土木部計画課 03-5984-2073/都市整備部西部地域まちづくり課 03-5984-1284/練馬区教育委員会 03-5984-5723

※計画の詳細は土木部発行の「みちづくり・まちづくり通信」をご覧ください。(「補助第135号線、第232号線」と検索)



## アブラハヤ



最近までは、松殿橋あたりがこの川では南限でしたが、11月末の定例活動で井頭橋近くにいました。石神井川には多く生息している魚種であり、これからギンブナと同じように増えていくものと思

われます。

水生昆虫や藻類など雑食性です。体長は15cmまでになります。水質が良く流れのあるところに生息します。

### ■今後のスケジュール

- 1/23 定例活動
- 2/19 社会福祉協議会イベントに出展
- 2/27 定例活動
- 3/27 定例活動

☆定例活動は午後1:30~に変更

### 会員募集中

白子川の水辺環境を良くするために  
一緒に活動しませんか。

正会員…年会費 2,000 円 世帯会員…年会費  
3,000 円 法人会員…1口 2,000 円以上  
通信購読会員…年会費 1,000 円 学生は無料

### 奇跡の魚「ムサシトミヨ」に会えた

12月17日(金)、東久留米市で開催された「全国湧水フォーラム」で印象に残ったことは、ムサシトミヨを目の前で見たことです。

オスが鳥のように巣を作り子育てする珍しいこの魚は、熊谷駅近くの住宅地に流れる小川に生息しています。ところが、生活排水の流入により絶滅寸前に追いやられ、埼玉県や地元の保護を受けている状態です。

白子川のホトケドジョウに

似た状況下の

ムサシトミヨ

に親しみを

覚えました。

(菅沢博)



### 編集後記

▼9月に金魚の水槽に卵を発見。卵はわずか一日ほどで孵化。シラス状態の稚魚がわんさこいたが、この3ヶ月で50匹くらいに減った。成長の具合も個々でまちまちだが、このまま全員が我が家に居座れば、家中が水槽になりそう…。どなたか、金魚の里親になってはくれまいか？(さ)

▼木道のある源流部を歩くと、長靴がもっていかれるほどネチョネチョだ。そんな粘土質のドロに酸素を送りこもうとポンプで水圧をかけた。以前、そのドロを乾かして肥料にした。また、乾いたドロから素焼きにできないか、という話もある。当会の古老はアイデアマン揃いです。(け)

※この会報は年3回発行しています

発行 白子川源流・水辺の会  
 編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子  
 題字 宮本沙海  
 発行部数 1000部  
 代表 菅沢 博 03-3923-8430

練馬区南大泉 1-10-5

[suga-lohas@jcom.home.ne.jp](mailto:suga-lohas@jcom.home.ne.jp)

[http://www.geocities.jp/sirako\\_river/](http://www.geocities.jp/sirako_river/)